

令和4年度 第1回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和4年8月9日（火） 15時から17時35分まで

2 場 所 横浜市役所 18階みなと6・7会議室

3 出席者 西田 由紀子 委員、丸山 宏 委員、村井 良子 委員、吉本 光宏 委員

4 傍聴者 なし

5 議事内容

議 題	1 議題1：委員長選出 2 定足数の確認 3 委員会の公開・非公開について 4 議題2：令和3年度業務評価
議事・ 委員意見等	1 議題1：委員長選出 「横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱」第6条第1項に基づき、委員の互選により丸山委員を委員長に選任した。 2 定足数の確認 委員数5名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 4 議題2：令和3年度業務評価 (1) 評価関係資料について ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。 イ 指定管理者業務報告及び自己評価について 指定管理者から、令和3年度の文化事業、施設運営、維持管理及び収支決算などについて、実績の報告及び自己評価についての説明があった。 ウ 行政評価について 業務評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。 (2) 指定管理者へのヒアリング、評価・改善点の説明 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。 《ヒアリング内容の説明》 「1 経営 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。」について 《質疑》 (委員) 横浜美術館は大規模改修中で、令和3年度は1年間、休館していたとのことだが、業務報告書や業務評価表を見ると、開館しているときよりも忙しいのではな

いかという印象を持った。

(指定管理者) 開館後 30 年間の蓄積で固定観念も生まれており、令和 5 年度に予定しているリニューアルオープンを前に、様々な取組でアップデートを図っている。通常の開館時とは全く違うことをやっていることもあり、職員がストレスを感じないように注意している。

(委員) 文化観光拠点計画で文化庁から補助金をもらっていることで、年度ごとに報告書を提出する必要があると思うが、結構な業務量ではないか。

(指定管理者) 経営管理部門に申請や報告の負荷がかかっているが、学芸部門や教育普及部門の職員も協力して事業内容をまとめている。細かく現場を見ながら進めていきたいと考えている。

(委員) 多面的なツールで広報に取り組んでいるようだが、受け手の人たちの反応はどのような形で返ってきているのか。

(指定管理者) ホームページのページビュー数などを定期的に確認している。

【評価できる点】

- ・令和 3 年度は大規模改修に伴う休館中という状況下で、業務報告書や自己評価などを読むと、今後の美術館の運営や展覧会の企画など、開館時とは次元の違う業務を行っており、仕事の 1 つ 1 つがタフな内容になっている中、よくやっていると感じた。

【更なる取組を期待する点】

- ・リニューアルオープン後に何をするのかということと併せて、その先の 30 年くらいの長期ビジョンを検討してほしい。
- ・外部との連携について、専門家を交えているところはあるものの、もう少し市民の声を聴く場を設けたほうがよい。大規模改修後に関して、内々で検討していることが多いと感じる。
- ・休館中の活動について、ホームページで積極的に発信しているが、横浜美術館のホームページを見慣れていない人だとトップページの「休館中」の案内でサイトを閉じてしまうかもしれない。工夫がほしい。
- ・文化観光拠点計画に関わる事務で現場の業務負荷がかかっていると思うので、ケアをしっかりとしてほしい。

「2 事業① 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。」について

【評価できる点】

- ・令和 2 年度に横浜美術館で開催したトライアログ展を、令和 3 年度には共同企画館の愛知県美術館、富山県美術館で巡回したことを評価したい。トライアログ展を 1 つのモデルケースとして、どんどん進展させてほしい。
- ・休館中でありながら、大規模改修工事の仮囲いを用いて小企画展 New Artist Picks を実施できたことはよかった。

【更なる取組を期待する点】

- ・小規模でもよいので、市民に対して巡回展のような形で横浜美術館の質の高い展覧会に接する機会を設けてほしい。

「2 事業② 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」について

《質疑》

(委員) 作品と新たな出会いや関係性を生むようなコレクションの見せ方、構成の仕方、連携の仕方などについて、将来的にはどのように考えているか。

(指定管理者) リニューアルオープン後、いかにコレクションを活用するかが課題と

なっており、具体案の1つとして、コレクション展の中に名品コーナーのような固定のコーナーを作る案が出ている。また、今後10年のコレクションの活用の仕方を探る取組として、コレクションを総ざらいして、横浜をテーマに新しい切り口で作品を紹介する企画を考えている。

(指定管理者) トライアログ展を1つのモデルケースとして、どのような美術館と連携できるか可能性を探りながら、コレクションに新たな視点を設ける試みを継続していきたい。

(委員) 大規模改修後の収蔵庫の環境や、コレクションの移動時に行った現況調査の結果、文化基金の充実について確認したい。

(指定管理者) 収蔵庫は増設によってスペース的にはかなり拡充され、作品の保全状態は改善が期待される。修復については、今後の修復が望ましいものを約200点リストアップし、昨年度より優先順位を設けて順次、作業に取りかかっている。

(市) 文化基金については市で持っている。基金の残高は減少してきており、昨今の市の財政状況の中、十分な積立ができていない。ただ、この状況で良いとは思っておらず、どのような形で財源を確保するか検討している。

(委員) デジタルアーカイブに関連して、ジャパンサーチには参加しているのか。

(指定管理者) まだ参加していない。美術図書については横断検索のシステムに加わっており、現在は休館中で一旦、抜けているものの、リニューアルオープン後は再開する予定。コレクションの横断検索も必要だと思うので、検討していきたい。

【評価できる点】

- ・コレクションを活用するための基盤づくりについて、頑張っている点の評価したい。
- ・文化観光拠点計画にのっとり、コレクションの画像公開や作品解説などのデータ化が着実に進んでいる点の評価したい。
- ・紀要論文のウェブ公開をはじめ、美術情報センターの活動方針などリニューアルオープンに向けて丁寧な取組が行われている。

【更なる取組を期待する点】

- ・コレクションの見せ方や構成、連携などで既成の考え方にとらわれず、新たな発想を持って活用し臨むことで、鑑賞者にもコレクションの新たな楽しみ方を提供してほしい。
- ・リニューアルオープンに合わせて予算措置をして、シンボリックなもの、あるいは横浜美術館ならではのものなど、新たなコレクションを増やしてほしい。

「2 事業③ 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。」について

《質疑》

(委員) 仮拠点で行ったワークショップなどは、これまでの事業を継承するものか。今後実施したいプログラムの試行なども盛り込まれているのか。

(指定管理者) 横浜美術館では12歳以上の市民のアトリエ、12歳未満の子どものアトリエと分かれており、仮拠点で行った親子向けの講座は、初めての試みだった。ジャンルも、今まで取り組んでこなかったテキスタイルやタイポグラフィなど、30年間の蓄積から少し離れて、次の展開を考えた企画を進めている。

(委員) ボランティアに関しては、文化観光拠点計画の活動にシフトしているように思える。

(指定管理者) 休館中という状況下で、ボランティアの方々と一緒にできるもの考えた結果、文化観光拠点計画の補助金を活用して、コレクションをどう活かしていくかという観点から3つのグループに分かれて活動している。その一方で、リニューアルオープン後を見据えてボランティアや市民協働の在り方を検討している。

【評価できる点】

- ・横浜国立大学との連携による高齢者施設へのアウトリーチなど、教育プログラムは非常に良い取組が展開できている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中、オンラインを交えるなどして工夫しながら取組を行っている点を評価したい。

【更なる取組を期待する点】

- ・横浜美術館と大学との連携による高齢者施設への取組は、報道でも大きく取り上げられており、今後、他の美術館などに対するモデルケースになることにも期待したい。
- ・ボランティアについては、これまで多様な対象に実施してきた鑑賞体験の質を高める活動は大変重要であり、今後も続けてほしい。
- ・市民協働では、将来的には誰でも出たり入ったりできるプラットフォームのようなものが生まれることを望みたい。
- ・これまで、横浜美術館の教育プログラムは子どもと市民で大きく2つのくくりだったが、障害者や認知症の人など、美術館から距離が遠かった人たちにも館に来てもらうことがサービスとして求められている。リニューアルオープン後の柱の1つとして期待したい。
- ・教育普及プログラムは、1つ1つの事業を丁寧に円滑に無理のないよう行える限界がどこにあるのか、実施体制、人員体制を含めて検討してほしい。

「3 施設の運営事業① お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。」 「3 施設の運営事業② 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。」について

《質疑》

(委員) ショップの運営を直営から業務委託にする点について、横浜美術館らしさは残されるのか。

(指定管理者) 横浜美術館やアーティストとのコラボレーション商品など、利用者からは横浜美術館に行った形跡が残るものへの需要があると想定しており、運営事業者が決まったらその事業者とともに共同して開発していく。

(委員) 民間の運営事業者を複数の中から選択するのか。

(指定管理者) プロポーザルで運営事業者を決定する。

【評価できる点】

- ・市民への魅力の発信を大規模改修で途切れさせず、リニューアル後に向けてつなぐ姿勢が随所に見られる点を評価したい。

【更なる取組を期待する点】

- ・カフェに関しては、企画展との連携事業などで今までうまくいっていた印象があるので、リニューアルオープンに当たって業務委託をする際、支障が生じないようにしてほしい。
- ・DXについて対応できる人材を確保してほしい。

「4 その他の業務」 「5 人員計画」 「6 留意事項」について

《質疑》

(委員) 政策協働を考えたときに、横浜美術館の内々のプロジェクトチームについて市はどのような関わり方をしているのか。オブザーバーとして参加するなどしているのか。

(市) 基本的には横浜美術館で検討しているが、その内容は美術館と市で開催している政策経営協議会で確認している。

【評価できる点】

- ・グループ横断で実施していた各プロジェクトは、業務の質を高めていると受け止めた。館の総力を挙げて、自由闊達に議論やアイデア出しができていたことが読み取れて、リニューアル後が大いに期待できる。

【更なる取組を期待する点】

- ・政策協働に関連して、次期指定期間が終わる 10 年後だけではなく、30 年後に美術館がどうありたいのか、美術館と市で検討を進めてほしい。

「7 特別事業」「8 収支計画」について

《質疑》

(委員) 大規模改修が終わってからヨコハマトリエンナーレ 2023 が始まるまでの期間が短いのではないか。必要なものだけ移転させて、ヨコハマトリエンナーレが終わった後に本格移転する形でもよいのではないか。

(市) 基本的には、ヨコハマトリエンナーレの開催に最優先で取組んでもらい、美術作品の移転や他の事業については、ヨコハマトリエンナーレの後で行う形になる。市の予算もそのような形で手当てできるよう、準備を進めている。

【評価できる点】

- ・リニューアルオープンを見据えた検討が進められ、移転関係予算が適切に用いられていることが理解できた。

【更なる取組を期待する点】

- ・財政基盤の持続可能性を高めていくためにも、市民から立ち上がるような、美術館を応援する枠組みの構築を期待したい。
- ・美術館内での様々な研究環境を整えることに、さらに予算を使ってもらいたい。

「総括」について

・令和 3 年度はコレクションの外部倉庫への移転、仮事務所での業務、次のステージに向けた準備など、いずれも綿密な計画や準備が求められる業務だったと推察されるが、よく頑張り、結果をみると着実に良い成果を収めた。

・具体的には、「横浜〔出前〕美術館」や「やどかりプログラム」など親しみのあり、印象に残る取組や「ヨコハマトリエンナーレ 2023」の準備、美術情報センターの報告書作成と資料のデジタル化、New Artist Picks などが挙げられる。

・とりわけ、コレクションの活用で確たる成果を上げており、魅力あるコレクションを他地方の多くの鑑賞者にも届けたことを高く評価したい。

・これまでの実績を踏まえて、横浜市らしいコレクションやコレクション像をさらに深めていく活動に期待したい。

・コロナ禍が続いた中で、海外とのネットワークの構築やオンラインツアーによる発信など、グローバルな視点をもって社会状況に臨機応変に対応できている。

・指定管理者の横浜市芸術文化振興財団で取組んでいる「クリエイティブ・インクルージョン」は国際都市横浜にふさわしい美術館像である。横浜美術館のアトリエに関しては、様々な人が創造活動ができる場にしてほしい。

・市民協働では、市民の主体性の発揮や活性化の観点ではもう一歩というところだが、横浜美術館が市民協働においてその存在感を示していることは高く評価できる。

・DXについては、その道のプロに横浜美術館のリソースを全部見てもらい、提案を受けるほうが早くて面白いアイデアが出て実践的でもあると思うので、検討してほしい。

・横浜美術館などの指定管理施設で進められてきた政策協働方式は導入から 10 年を迎え、これまでを総括して一定の答えを出す時期に来ているのではないか。

- ・リニューアルオープンに向けて、今後は受け手の市民の企画力、アイデアなどを広く取り入れられるようにしてほしい。
- ・横浜美術館の今後の活動の価値基準や行動基準になるものなど、大きなビジョンを決めた上でリニューアルオープンの準備を進めてほしい。
- ・リニューアルオープンに当たっては、長期的にみたときに横浜美術館としての次のゴールのようなものを指し示す、分かりやすいメッセージを出すことが大切となると思うので、そこに知恵と時間を絞ってほしい。

5 まとめ

最後に、指定管理者が横浜美術館で令和4年度に実施している取組について説明を行った。

また、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとした。